

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20228005	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	間葉系細胞の免疫応答に着目した腸肝軸多段階免疫バリアーシステムの研究	研究代表者 (所属・職) (平成26年3月現在)	尾崎 博（東京大学・大学院農学生命科学研究科・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、消化管と肝臓が連携して生体防御に当る腸肝軸における間葉系細胞群の免疫機構への関与を解明することが目的である。これまでの成果は34編の原著論文に纏め、平滑筋細胞、筋線維芽細胞、血管内皮細胞、免疫系細胞などに関する研究成果を含め、インパクト・ファクターの合計が103.625である。その他、総説が5編および国際学会が9編に公表している。特に、研究代表者グループは着実に成果を上げている。しかし、他施設の研究分担者は、潤沢な研究費があるにも係らず、研究の進展が遅れているので、より一層の研鑽が望まれる。</p>	

【平成26年度 検証結果】

検証結果	<p>消化管と肝臓は、身体で最大の臓器群であり、消化吸収、免疫、内分泌、代謝による生命維持機構に不可欠な重要臓器群である。本研究で、腸肝軸の免疫機能解明に取り組んだ意義は大きい。研究成果の中でも、特に自律神経・免疫関連の研究は、身体へのストレス応答との関連で高く評価できる成果であり、研究成果の応用面で今後の研究の更なる進展が期待される分野である。研究開始時点で見込まれた成果は、概ね得られていると判断できる。5年間の研究成果は、原著論文としての公表と特許の取得という形で示されている。現時点では、原著論文での公表者に偏りがあるが、研究は得られた研究成果を論文として公表して初めて終了することを忘れずに、研究組織として今後も得られた成果の公表に努めて頂きたい。</p>
A	